

令和 3 年度あま発未来創造塾
<塾生提案書>

令和 4 年 2 月

【成人式関係】

テーマ：成人式の反省

提案	背景	どのようなことを実施するのか
男女の差をなくす	<ul style="list-style-type: none">・今年の成人式実行委員は女子の人数が多かった・慣れない着物では移動や物を運ぶことが大変	<ul style="list-style-type: none">・広報あまで募集・実行委員自身の SNS を利用して募集・同学年だけで対応できない場合は、1つ下の学年から募集
恩師の出欠確認	<ul style="list-style-type: none">・当日欠席予定の先生が出席をしたためあたふたした・会場の入場場所が違うため実行委員会企画で出席状況が分かる	<ul style="list-style-type: none">・出席確認したものを実行委員にも共有
客席について	<ul style="list-style-type: none">・周りに同じ出身中学校の子がいなくて途中で帰る・一部で固まり、その周辺の席が空いている	<ul style="list-style-type: none">・ある程度、中学校区で座席指定をした方がいい
案内状について	<ul style="list-style-type: none">・案内状のことについて、実行委員に聞かれる・HP に案内が掲載されているが、そもそも HP を見ない	<ul style="list-style-type: none">・広報の仕方を工夫・中学校卒業時に周知するなど、広報時期を早める

(意見など)

- ・あま市ならではの成人式ができるといいと考えます。

【子どもの教育関係】

テーマ：あま市の学生みんなが繋がる町

提案	背景	どのようなことを実施するのか
子ども達の運動の場の提供	<ul style="list-style-type: none">・美和中学校体育館の取り壊し・行事関係を美和文化会館で行うこととなり、全学年が一緒に行事をする機会の減少・コロナ禍で行事の短縮や分散のため異学年の交流が減少	<ul style="list-style-type: none">・運動が苦手な子が達成感を得られる運動・子どもに運動の楽しさを知ってほしい
子ども達の交流の場の提供	<ul style="list-style-type: none">・同上・今の小中学生の現状を知らない	<ul style="list-style-type: none">・市から場の提供（保護者の信頼）・タブレット教育を生かし高校生や大学生との交流・子ども間のコミュニティを市単位へ広げる・みんなが今、学校で行われていること、したいこと、あるといいものを伝えられるコミュニティ形成

(意見など)

- ・都市公園では遊びに制約があるため、学校の運動場を開放しています。
- ・「保護者からの信頼を受ける場所を得ること」市側も保護者に説明をしながらやっていきます。
- ・運動が苦手な子ども達も一緒になって遊べる形づくりを、子ども達が工夫しながらやるのか、大人や大学生がコーディネートするのがいいかはこれから相談します。コーディネートをするならば、放課後子ども教室を利用したほうがいいと考えます。

【巡回バス関係】

テーマ：市の交通の便の向上と移動に優れている町

提案	背景	どのようなことを実施するのか
巡回バスが市民に認知され利用されれば市の交通の便の向上に繋がり移動に優れている町として更に発展する	<ul style="list-style-type: none"> ・きっかけがなければ存在を知っていても利用することがない、もっと言えば存在自体知らない人もいるかもしれない 	
運行形態を新しくする	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、市内の施設への移動に役立てられている ・限られた方の利用 ・運行時間帯から若年層が利用しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の施設だけでなく市から都市、都市から市への移動に役立てる ・通勤通学の時間帯に運行 ・一周にかかる時間を短縮して目的地に着く時間を短くする ・ルートを増やす、スーパーなどを停留所とするなど様々な方法を駆使 ・新庁舎の開庁とともに運行形態を見直してほしい

(意見など)

- ・あま市は交通の便は悪くない状況。
- ・巡回バスは、高齢者、障がい者、妊婦の方をターゲットに実施しています。
- ・現在、1日に1便2人乗るぐらいで、本数を増やしても変わらないと思います。
- ・東西の交通網は豊か。問題の南北をピストン輸送することで他のいろんな解消ができると思います。また、バスにこだわらずタクシー券を出すなど色々調べないといけないが、形づくりを作っていかなければならない。
- ・巡回バスになかなか乗らない。でも、足が必要としている人もいる。そういう人たちにとって何が必要なのか今後も考えていく必要がある。

【障がい福祉関係】

テーマ：障がい者とその家族、関わる人たちすべてが暮らしやすい町

提案	背景	どのようなことを実施するのか
人と人を繋げる機会を増やす	<ul style="list-style-type: none">・家族が最重度の知的障がい者で子育てなど様々な苦難・不安を抱えている親はいる・苦難を若い世代に伝えたい、同じ思いをしてほしくない	<ul style="list-style-type: none">・障がい児をもつ若い世代の親と子育て期間を終えた障がい児の親やアドバイザーと繋がる機会・1つの場所に集まって話ができる相談会の開催・SNS やインターネットを使った相談システムの整備

(意見など)

- ・障がい者の子どもだろうが健常者の子どもだろうが一緒という考えを持っています。
- ・小さい時から一緒に生活をしていけば、差別など関係なく同じ接し方をします。このような取り組みを続ければ世の中が変わります。
- ・保護者会はありますが、ネットワークについては勉強します。

【子どもの教育関係】

テーマ：趣味の話

提案	背景	どのようなことを実施するのか
小学生に長く続けてもらえる趣味を見つけてほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の頃に見つけた趣味を続けたことで武器となり、今の私生活や進路を充実させてくれた ・将来の選択肢を増やせる ・自己肯定感が上がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味を見つけるために、月・水・金曜日で毎回違うチャレンジをする ・楽しさをインプットだけでなくアウトプットする場所
趣味を見つける時は大学生と一緒に 気楽に学べる場所を作りたい	<ul style="list-style-type: none"> ・違う世代にも伝える能力をあげてほしい ・共働き世帯の増加に伴い鍵っ子が増え子どもを預かる場所が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生になっても続けられる趣味は魅力があるから伝えて欲しい ・大学生がプロの講師と繋げるパイプ役になってほしい ・小学生が何年後か逆の立場となって長くできる循環のある場所
起業という形でやっていく	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを出来る大学生は限られている ・会社と市の協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生にアルバイトとして入ってもらいボランティアとして繋げる

(意見など)

- ・放課後子ども教室があります。皆さんの力を借りながらやりたいと思っています。今すぐは、難しいですがプログラムを立ててやれば夢が叶う可能性があります。
- ・行政が民間の方に依頼をして場所を提供することは出来ます。しかし、ハードルは高いと思います。
- ・NPO（非営利団体）として活動する方法もあると思います。

【多世代交流とチャレンジの場】

テーマ：未来塾をとおして感じたこと

活動	経緯	感じたこと
子ども料理教室	<ul style="list-style-type: none"> ・何か新しいことがやりたい ・ボソッと「料理教室をやりたい」という一言が開催に繋がった ・自分たちが経験したことを子ども達に伝えたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なことに興味を持つようになった ・「やりたい」の一言で企画となり開催までできたのが未来塾の良いところ ・1人でやるのは大変で仲間の協力が必要 ・チャレンジの場となった ・ボランティア活動でも学べることがあるが、それと違った達成感ややりがいになった ・色々なボランティアや企画に挑戦したいと思えるようになった
提案	背景	どのようなことを実施するのか
あま市に住む多世代がゆる〜く交流できる場	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが関わっていない世代のことを知らない ・下の世代はもちろん社会人の方や子育て世代の方々と交流する機会がない ・自分の知らない考えを知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・堅苦しい話だけでなくゆるく話せる場 ・対面、オンラインどちらでも可
チャレンジのサポート体制	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのことを成し遂げるのに1人では大変 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験者や仲間と一緒にできる体制 ・市とのやり取りをサポートする職員の育成 ・1つの実践の場として市が利用されるのは誰にとっても良いこと

(意見など)

- ・イベントの内容によるけれども、まちおこしになれば面白い。
- ・調理は、子ども達の自立心を身につけるとても良い企画だと思います。
- ・料理教室だけでなく様々な教室をやってもらいたい。後押しをする機会は生涯学習課で、生涯あま市は勉強の場、学べる場を提供していきたい。皆さんのお手伝いをしたいと思います。
- ・失敗しても恐れることなく、未来塾を通して何か事業をやってもらいたい。色んな失敗をして色んなことを学び自分たちが大人になって、この経験があるから「今やれる」そういった思いを持って、失敗を交えながら未来塾で自分の思いをぶつけてほしい。
- ・未来塾を活用して自分の思いを伝える。思いが伝わると人が動く。感動、感銘を受けて人を動かす力を身につけてほしい。
- ・既に市の中に枠組みで繋がっていて、そこで新しい大きな価値が生まれて、チャレンジの次の可能性が見えてくると思います。
- ・同年代だからできる「チャレンジ、やってみたい、やりがい、仲間や準備の大切さ」を実感できる貴重な機会だと思う。
- ・気兼ねなくチャレンジできる環境を大人たちが作っていけるといいと思います。

【あま市について】

テーマ：住みたいまちになるには

意見

- ・コロナ禍で都市よりも密集していない場所がいい。そう考えると騒音とかあま市は問題になっていないため、安心して住み続けられるので今のあま市は良い。
- ・愛知県は交通の便が良いというが、あま市で見るとまだ良いとは言えない。巡回バスがもっと活性化して使いやすくなったら若者や親世代も使う機会が増えると思う。
- ・あま市から出たいと思ったことは一度もない。
- ・コミュニティが大事だと思う。あま市に戻ってきて同じメンバーが揃っている、同世代の方たちがいるとは限らないので1人ぼっちになるのは避けたいと思う。活動しているものを軸にコミュニティを広げていきずっと住み続けていけるまちであつたらいいなと思う。

(意見など)

- ・生涯学習の場の提供がコミュニティの1つのきっかけになればと思います。
- ・1つの仕組みとして、行政と民間が提携して空間、場の提供を考えていきたい。
- ・小さい子と接するというのが、小さい子からすれば「教えてもらった感覚」が芽がでて花開く時が来ると思う。そういう、きっかけづくりをできる範囲のサポート体制が出来たらいいなと思いました。
- ・今やっていることをみんなで共有して理解する、今思っていることをどう思っているのか理解しあつたうえで、その先にどんなプラスを積んでいけるのかという可能性もまだまだあると思います。その中で、それぞれの立場でできることは何か考えていける。今日で終わりではなくて今日から始めるきっかけにしてもらいたい。
- ・カッコいい、頑張っている大人たちがいるまちって子ども達にとってその背中から学べることが多いと思います。いくつになっても、いくつからでもチャレンジできる形がここから出来るといい。
- ・夢をもって発信して、経験してまた次に繋がるスパイラルでずっと続いていけば満足感・充実感がでて生涯住みたいまち“あま”になると思います。